

算数 第3学年 かけ算の筆算を考えよう

検討会の想定問答

指摘1：この時間で何を学ばせるのですか。

返し：中心は「乗数を位ごとに分ける考えと筆算の部分積を対応させる」です。二位数をかける式を長方形の配列に表し、筆算の下段が何を数えているか説明する課題を通して、手続きに加えて、乗数の十の位による部分積は十を単位にした積なので、位を対応させて書く必要があるという根拠を説明させます。学習指導要領の対応箇所はA(3)ア(7)・A(3)ア(1)・A(3)ア(ウ)・A(3)イ(7)です。

指摘2：問題が解けたことだけで評価していませんか。

返し：思①は正答だけでは判定しません。乗数を位ごとに分ける考えと筆算の部分積を対応させる際の説明で、図や操作の箇所と式の各部分が対応しているかを見ます。答えが正しくても根拠が書けない場合は、口頭や指さしで追加確認します。

指摘3：理解が難しい児童への手立ては何ですか。

返し：「部分積の先頭を一の位にそろえる、繰り上がりを別の部分積に混ぜる」が考えられます。配列を位ごとに色分けし、式と筆算に同じ色の印を付けることで、児童が自分の考えと操作の結果の違いに気付けるようにします。支援後に自分で説明できたかも確かめます。

指摘4：話し合いを入れる必要がありますか。

返し：乗数の十の位による部分積は十を単位にした積なので、位を対応させて書く必要があるという点を、異なる方法や誤りと比べて確かめるためです。発表を順番に並べるのではなく、乗数を位ごとに分ける考えと筆算の部分積を対応させるためにどこに着目したかを問い返します。

指摘5：学力差が大きい学級ではどうしますか。

返し：配列を位ごとに色分けし、式と筆算に同じ色の印を付けるという支援を使い、書く前に操作や指さしで考えを表せるようにします。既に説明できる児童には、条件を変えたときに方法が使えるか、使えなくなるのはどこかを考えさせます。中心となる学習目標は変えません。

指摘6：ICTを使うことが目的になっていませんか。

返し：児童の図を並べ、乗数を位ごとに分ける考えと筆算の部分積を対応させるための根拠を比較する必要がある場合にだけ投影します。端末がなくても実物・紙・黒板で同じ比較ができます。操作の経験が必要な箇所を画像だけで代用しません。

指摘7：配当時数と本時の位置の根拠は何ですか。

返し：全10時間は東京書籍の年間指導計画にある配当です。各次の配分と第6時を本時にする位置付けは、この資料の授業案です。二位数をかける式を長方形の配列に表し、筆算の下段が何を数えているか説明するために必要な既習が確認できた段階に置き、自校の計画で調整します。

指摘8：教科書の内容と違う授業になりませんか。

返し：単元名・配当・対応事項は東京書籍の公表資料に基づきます。本文や固有の問題は転記していないので、扱う問題は自校の教科書で確認します。乗数の十の位による部分積は十を単位にした積なので、位を対応させて書く必要があるという中心事項を保ち、数値や教材を変えても目標と評価の対応が崩れないようにします。

指摘9：態度は何をもとに判断しますか。

返し：部分積の先頭を一の位にそろえる、繰り上がりを別の部分積に混ぜるという考えを含む初めの記述と、操作や交流の後の説明を比べます。正答の速さや性格ではなく、乗数を位ごとに分ける考えと筆算の部分積を対応させるために方法を試し、確かめ直した過程を単元を通して見ます。

指摘 10：時間が足りないとき何を残しますか。

返し：方法の数を増やすことより、乗数の十の位による部分積は十を単位にした積なので、位を対応させて書く必要があるという根拠を図や操作と結び付ける場面を残します。発表の全員実施は省いても、全員が自分の説明を修正し、教師が思①の証拠を得る時間は残します。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

